

「今後の文化行政のあり方に関する県民意識調査」等の結果概要(速報)について

県では、今後の文化行政のあり方を検討するにあたり、その基礎資料とするため、県民の皆さんと市町を対象に調査を実施しましたが、その概要は、以下のとおりです。

なお、市町調査については、p8以降に記載しています。

I 今後の文化行政のあり方に関する県民意識調査

1 調査の概要

- (1) 調査地域 三重県全域
- (2) 調査対象 県内居住の20歳以上の男女
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 抽出方法 各市町の選挙人名簿を使用した無作為抽出法による。標本数は各市町の選挙人名簿登録者数の比率によって割り当てたもの。
- (5) 調査方法 郵送による発送・回収
- (6) 調査期間 平成25年9月13日(金)～9月27日(金)

2 調査の内容

下記の4つの調査項目により構成(設問数15問)

- (1) 属性に関する設問(5問)
- (2) 「文化」に関する意識や活動に関する設問(8問)
- (3) 今後の県の文化行政のあり方に関する設問(2問)

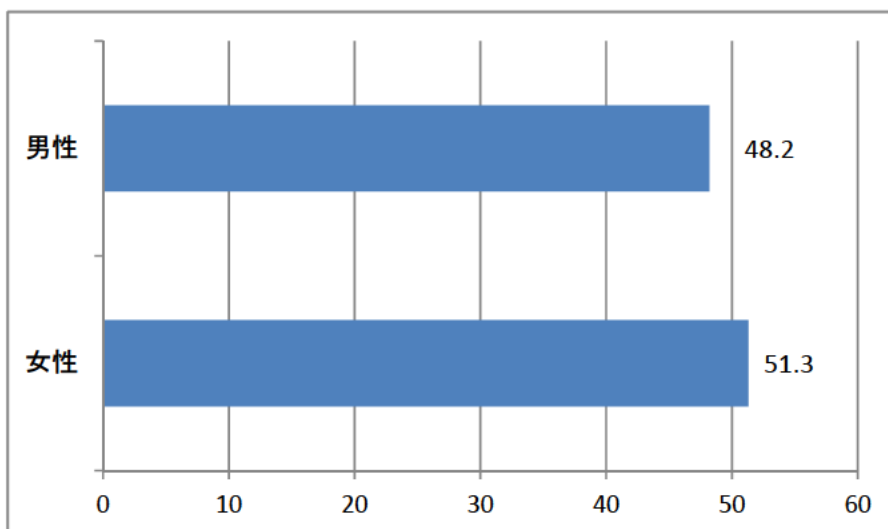
3 回収結果

- (1) 標本数 5,000人
- (2) 実回収総数 2,880人(回収率 57.6%)
- (3) 有効回答数 2,879人(有効回答率 57.58%)
- (4) 無効回答数 1人

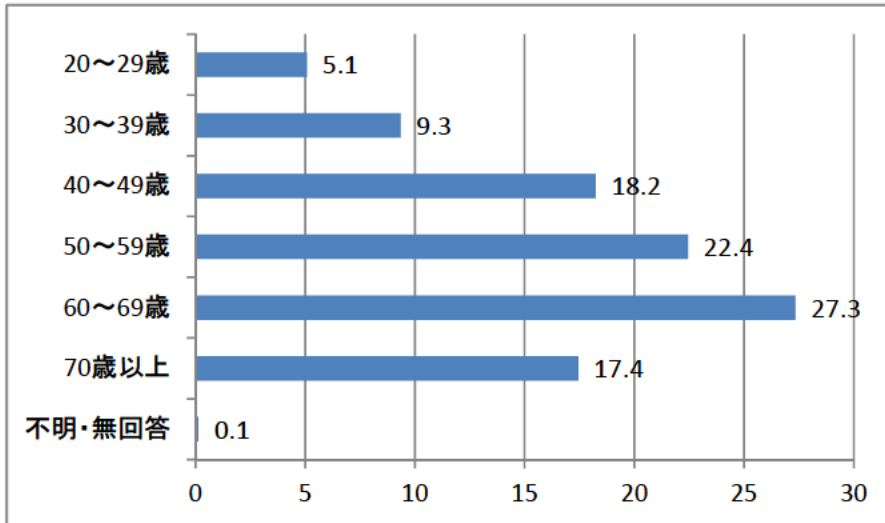
4 調査結果の概要

(1) 属性に関する設問(問1～5)

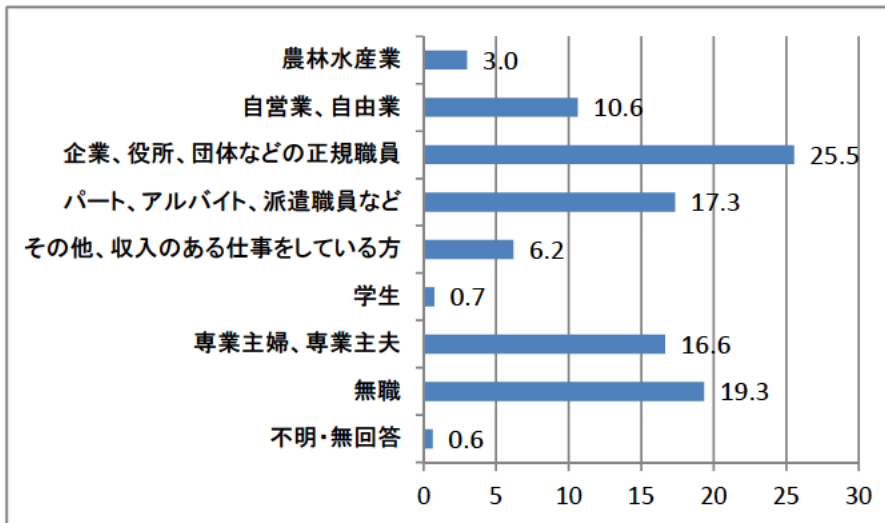
問1 性別(N=2,879人、単位:%)



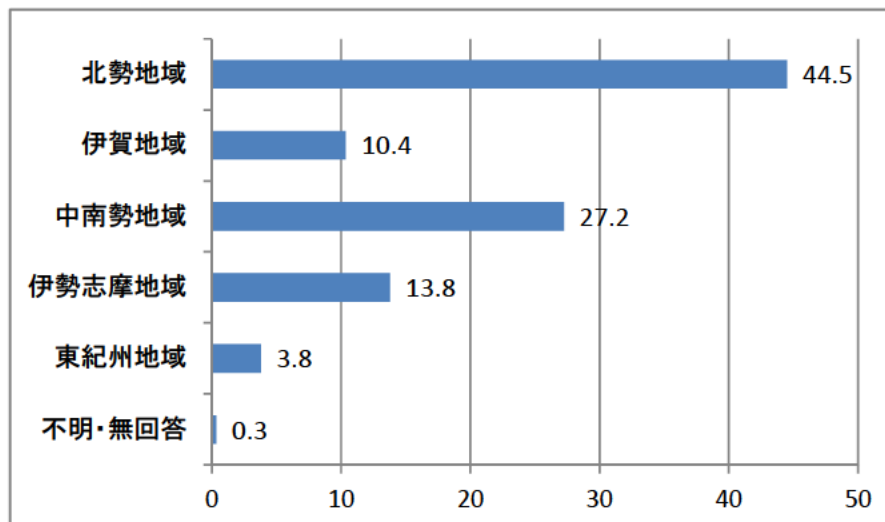
問2 年齢(N=2,879人、単位:%)



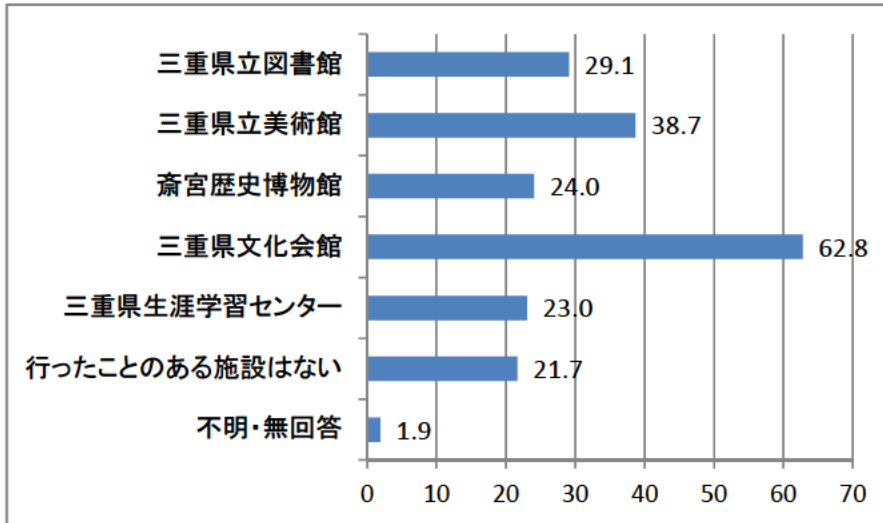
問3 職業(N=2,879人、単位:%)



問4 居住地域(N=2,879人、単位:%)

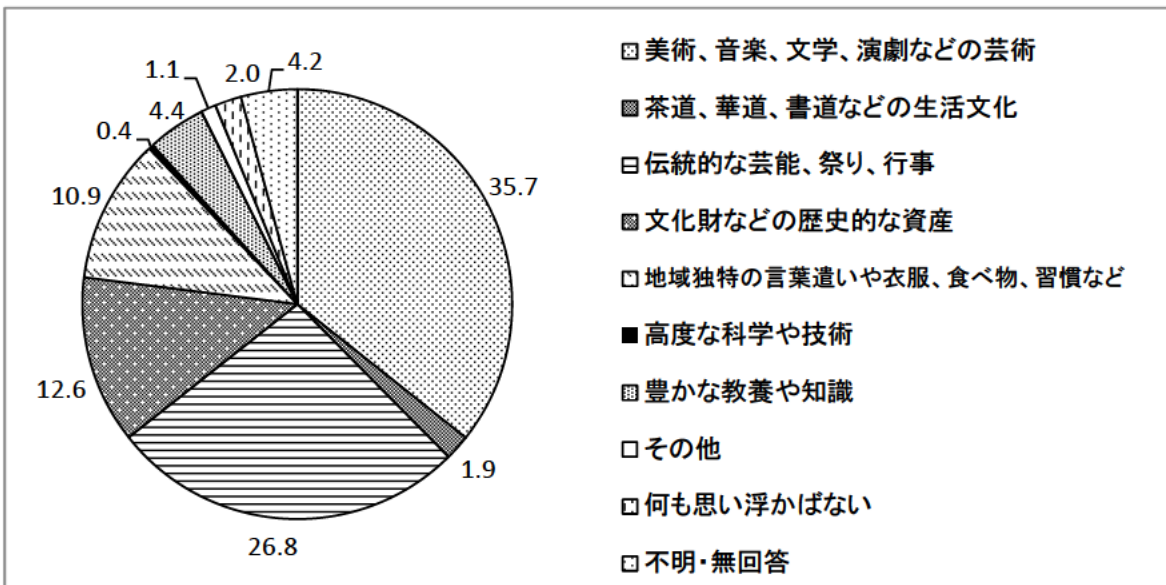


問5 これまで行ったことのある県立の文化施設(○はいくつでも)(N=2,879人、単位:%)

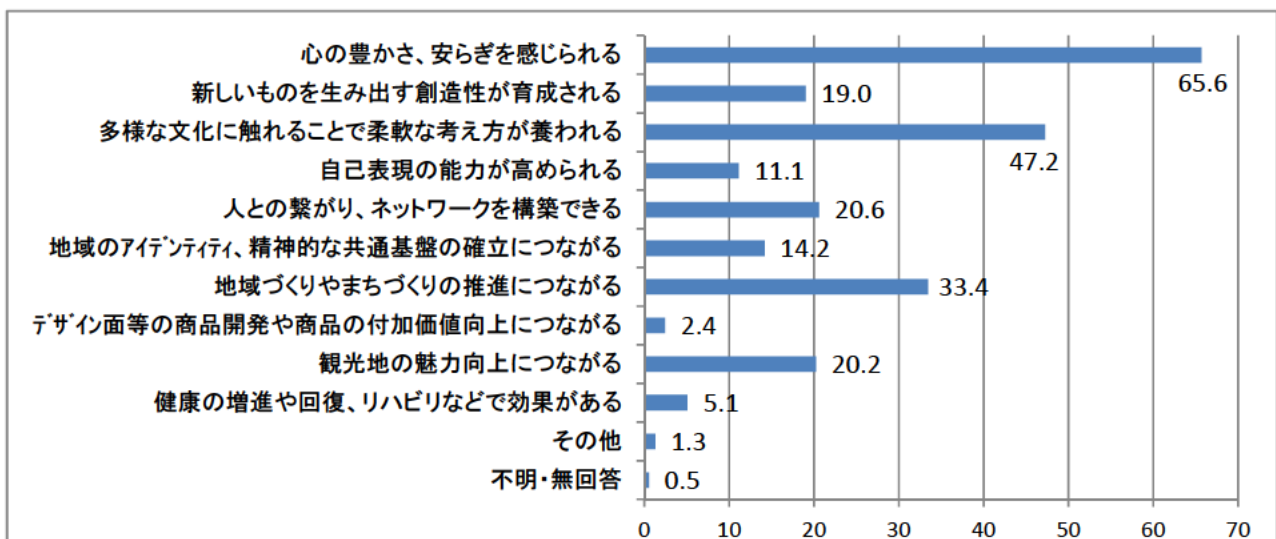


(2)「文化」に関する意識や活動に関する設問(問6~12)

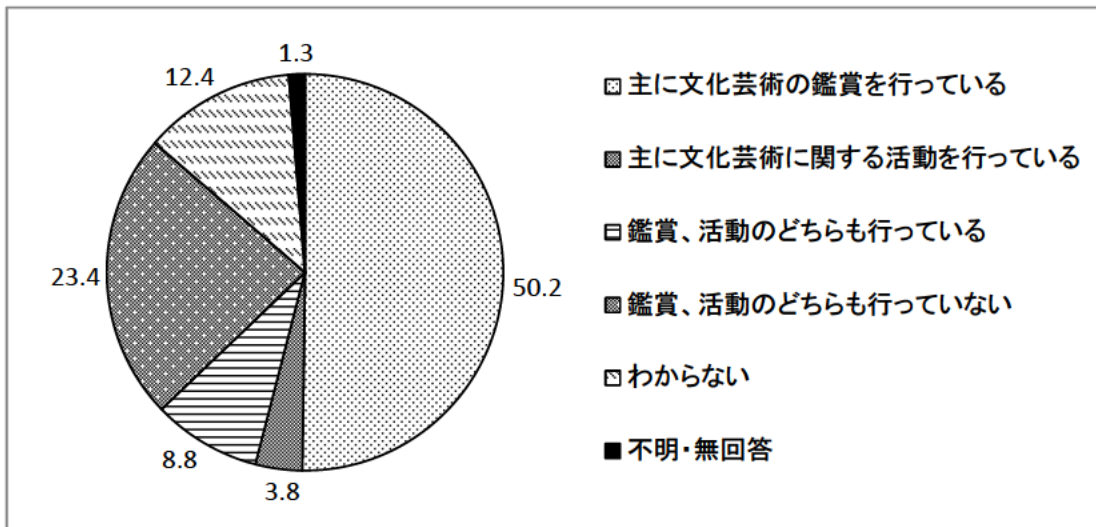
問6「文化」という言葉を聞いて、まず思い浮かべるもの(○は1つ)(N=2,879人、単位:%)



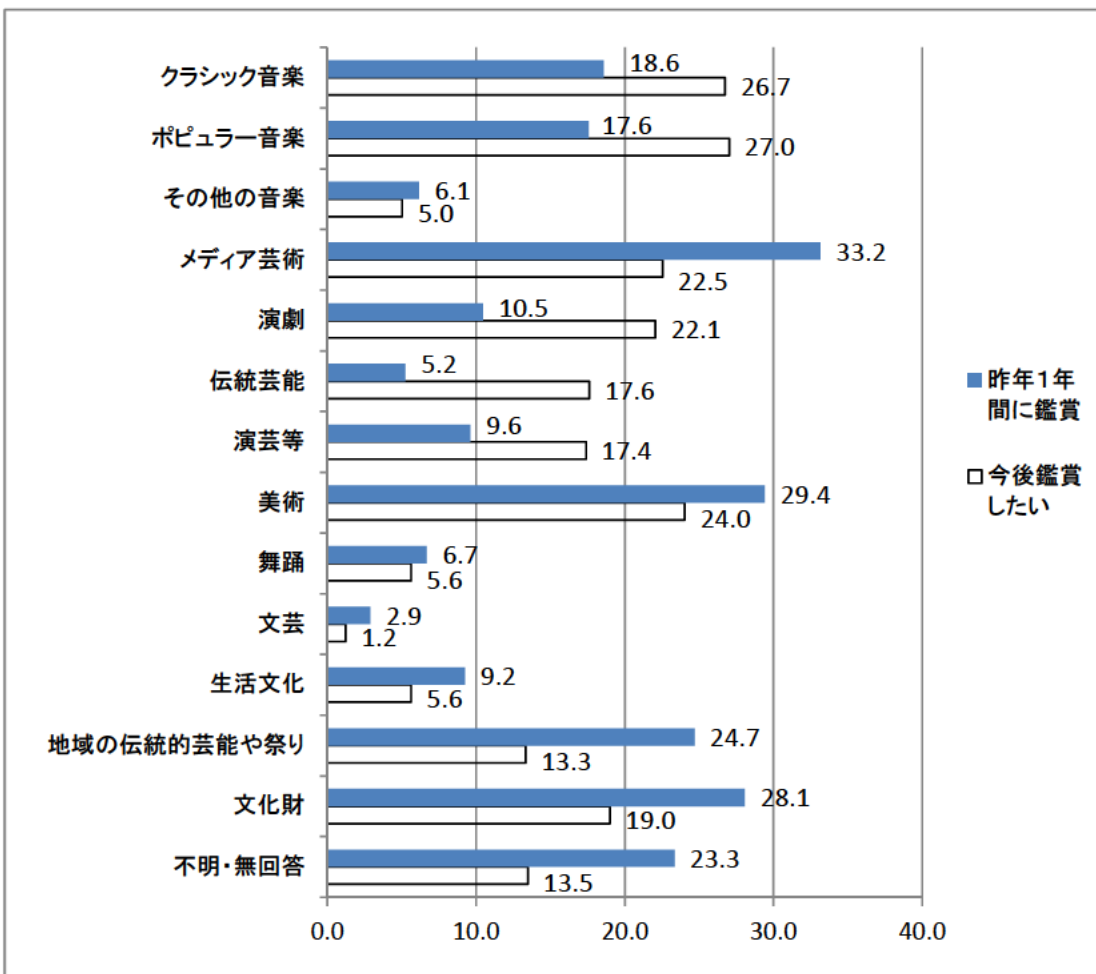
問7「文化」によってもたらされる効果と考えるもの(○は3つまで)(N=2,879人、単位:%)



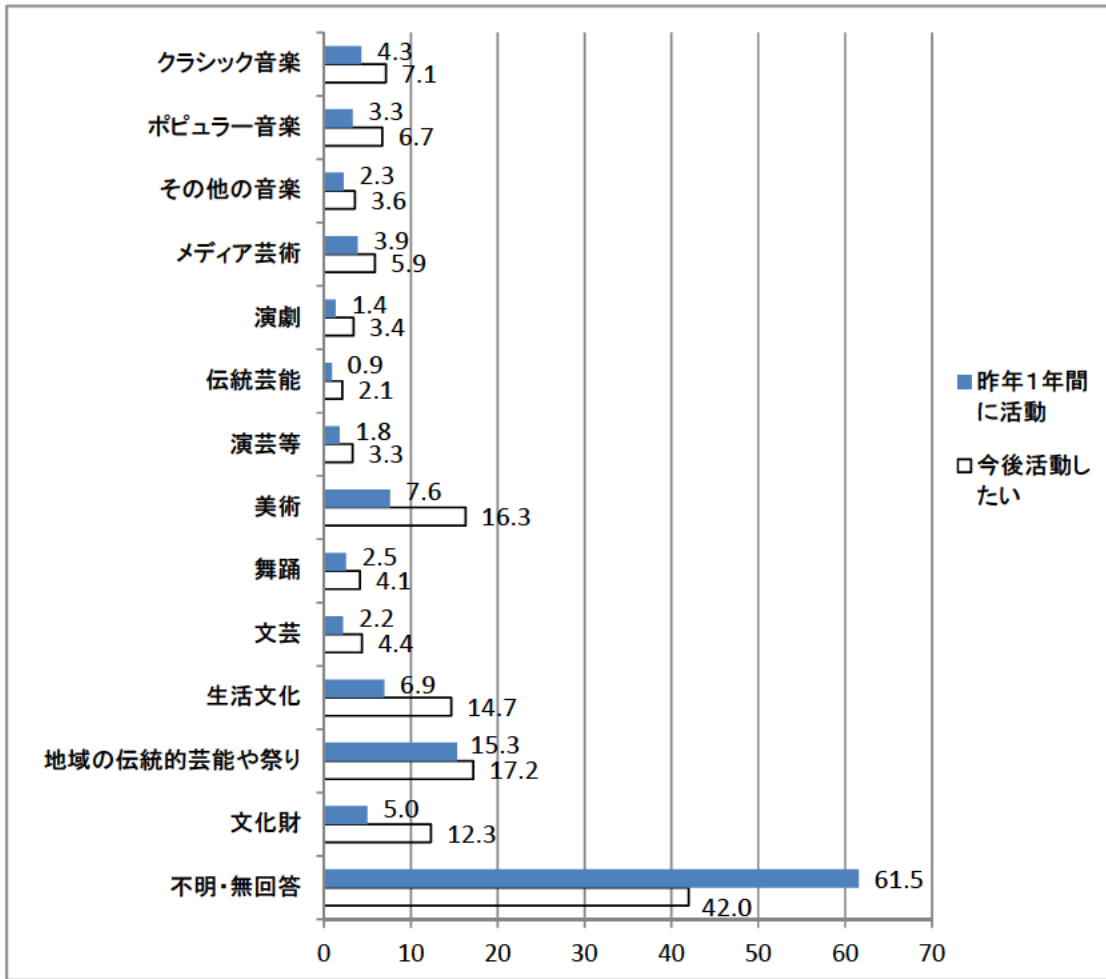
問8 日常生活で文化芸術にふれ親しむ方法(○は1つ)(N=2,879人、単位:%)



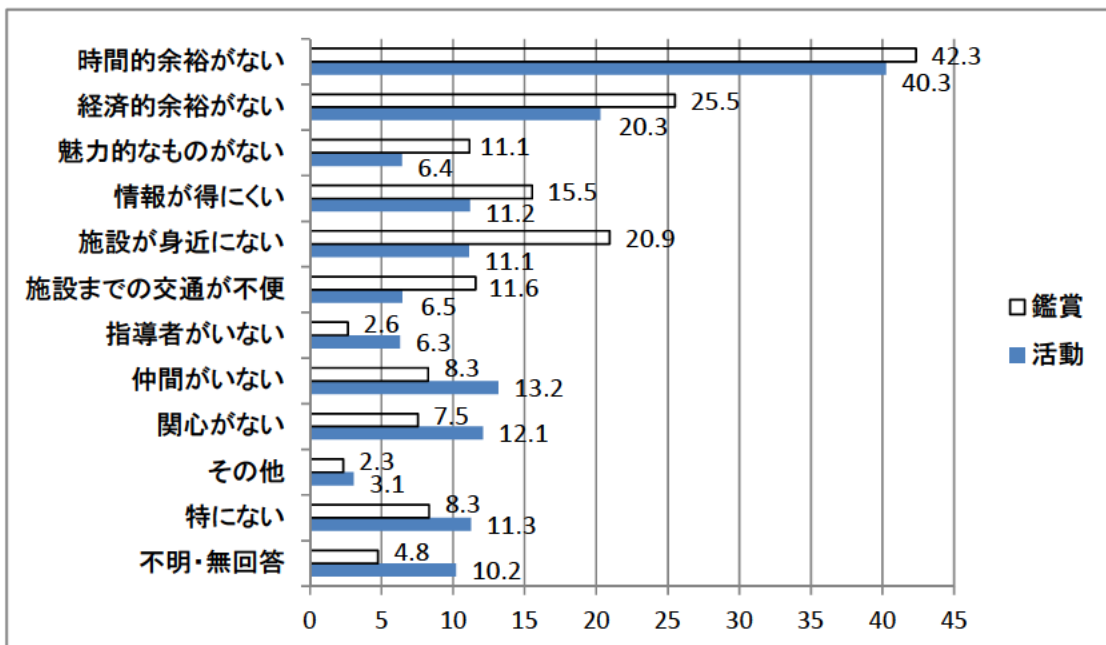
問9 A: 昨年1年間に文化施設で直接鑑賞した文化芸術(○はいくつでも)
 B: 今後、文化施設で直接鑑賞したい文化芸術(○は3つまで)
 (A、BともN=2,879人、単位:%)



問9 C: 昨年1年間に行った文化芸術活動(○はいくつでも)
 D: 今後行いたい文化芸術活動(○は3つまで)
 (C、DともN=2,879人、単位: %)

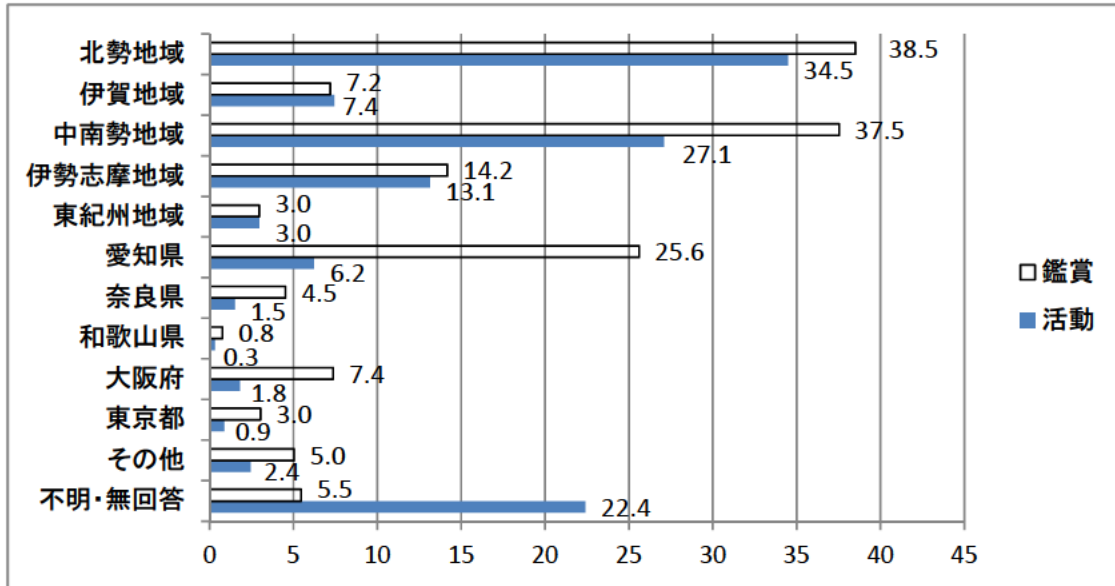


問10 A: 文化芸術の鑑賞にあたり、妨げとなること(○は2つまで)
 B: 文化芸術の活動にあたり、妨げとなること(○は2つまで)
 (A、BともN=2,879人、単位: %)



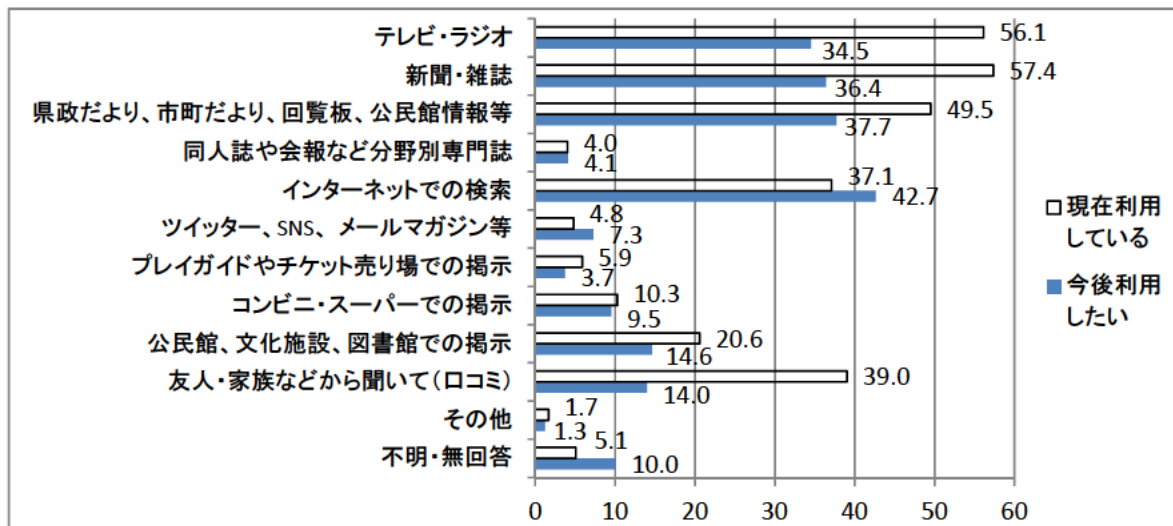
問11 A:主にどの地域で鑑賞するか(○は2つまで)

B:主にどの地域で活動するか(○は2つまで) (A、BともN=2,879人、単位:%)



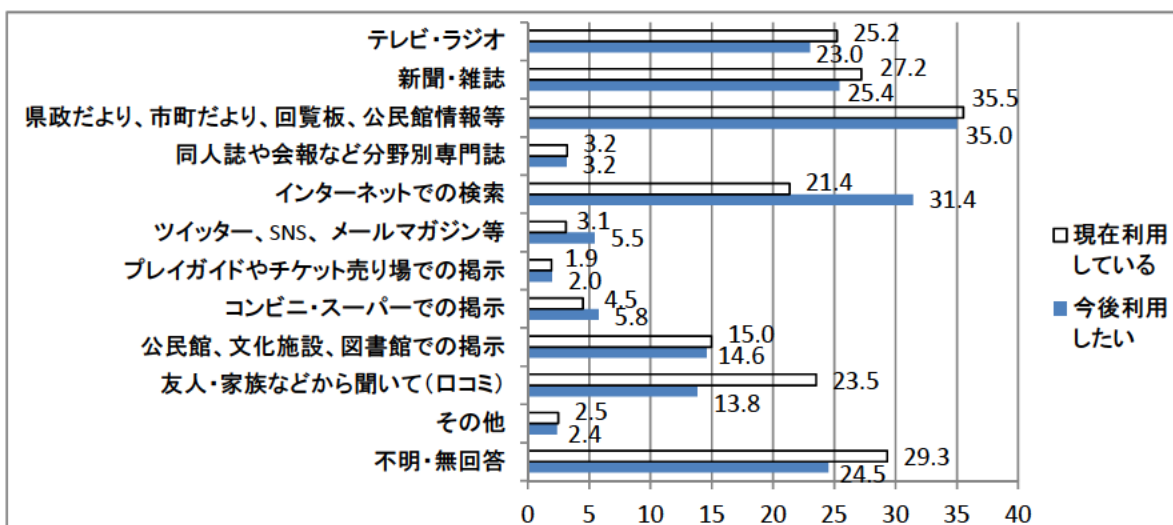
問12 A:鑑賞にあたり現在利用している情報入手手段(○はいくつでも)

B:鑑賞にあたり今後利用したい情報入手手段(○はいくつでも) (A、BともN=2,879人、単位:%)



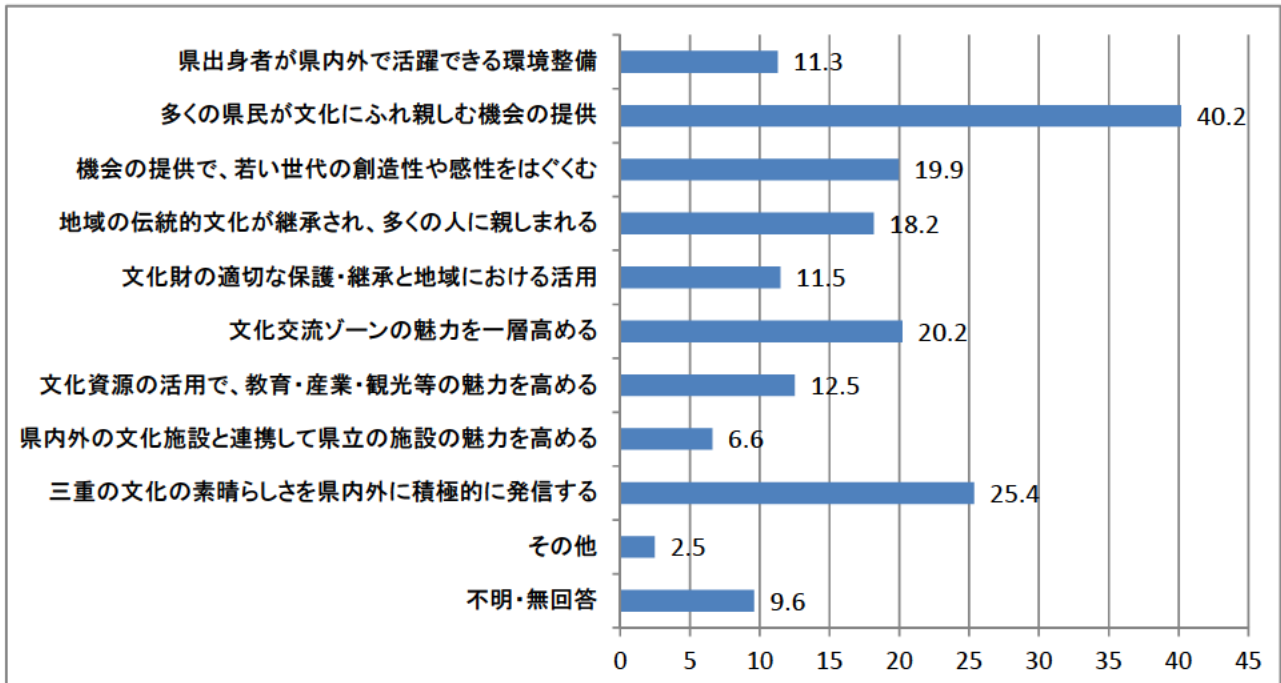
問12 C:活動にあたり現在利用している情報入手手段(○はいくつでも)

D:活動にあたり今後利用したい情報入手手段(○はいくつでも) (C、DともN=2,879人、単位:%)

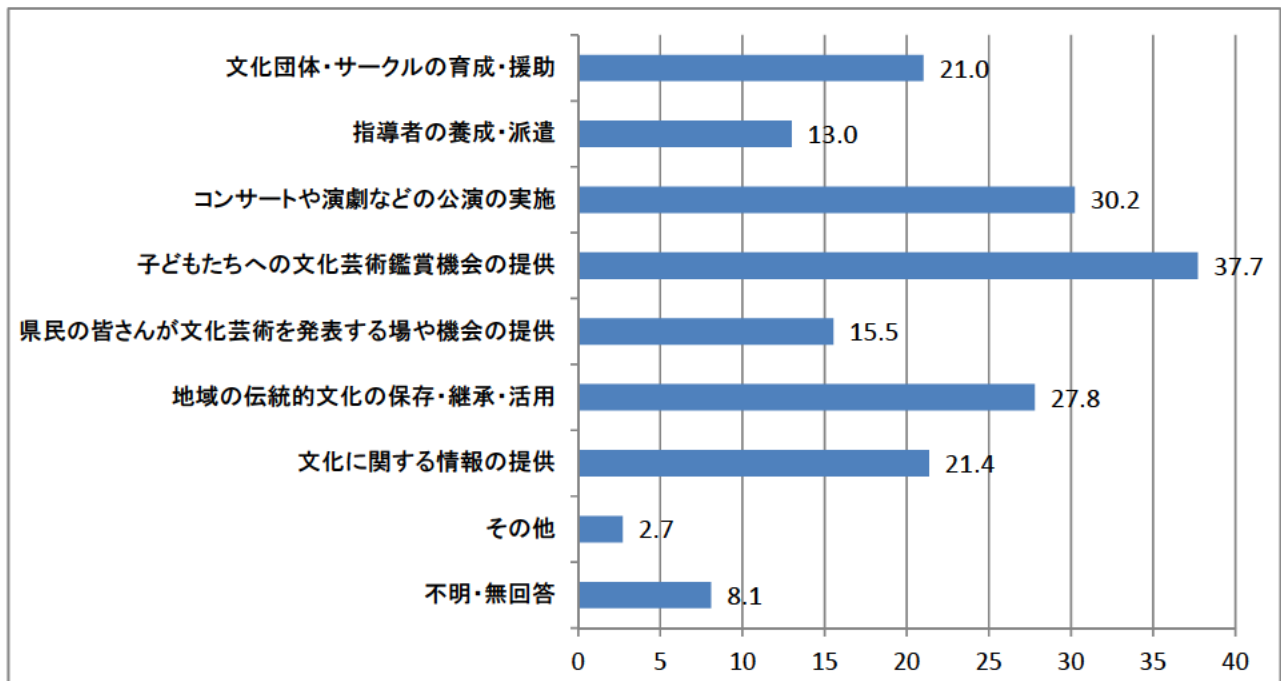


(3) 今後の県の文化行政のあり方に関する設問(問13、14)

問13 今後県が力を入れるべき文化振興施策(○は2つまで)(N=2,879人、単位:%)



問14 県民の皆さんに対して県はどのようなサポートをすべきか(○は2つまで)(N=2,879人、単位:%)



II 文化振興施策に関する市町調査

1 調査の概要

- (1) 調査対象 県内全市町(29市町)
- (2) 調査方法 郵送による発送・回収
- (3) 調査期間 平成25年9月13日(金)～9月27日(金)

2 調査の内容

「文化振興施策の対象としている『文化』」、「文化振興に関し特に力を入れている分野」、「文化振興に関する課題」、「県と市町の役割分担をふまえた上で、特に県が取り組むことが望ましいと考える施策」等全8問

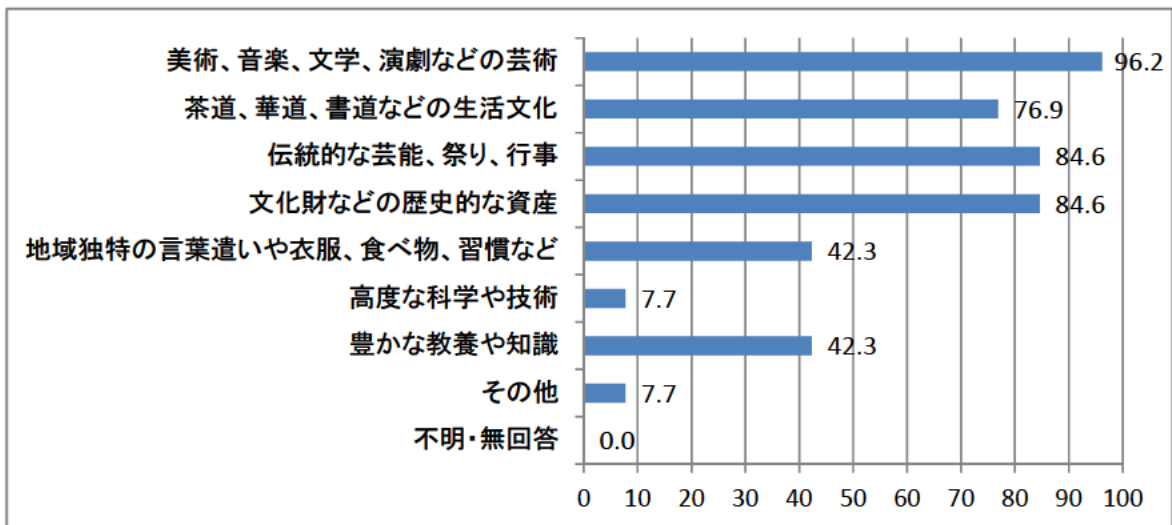
3 回収結果

- (1) 対象市町数 29市町
- (2) 回答市町数 26市町

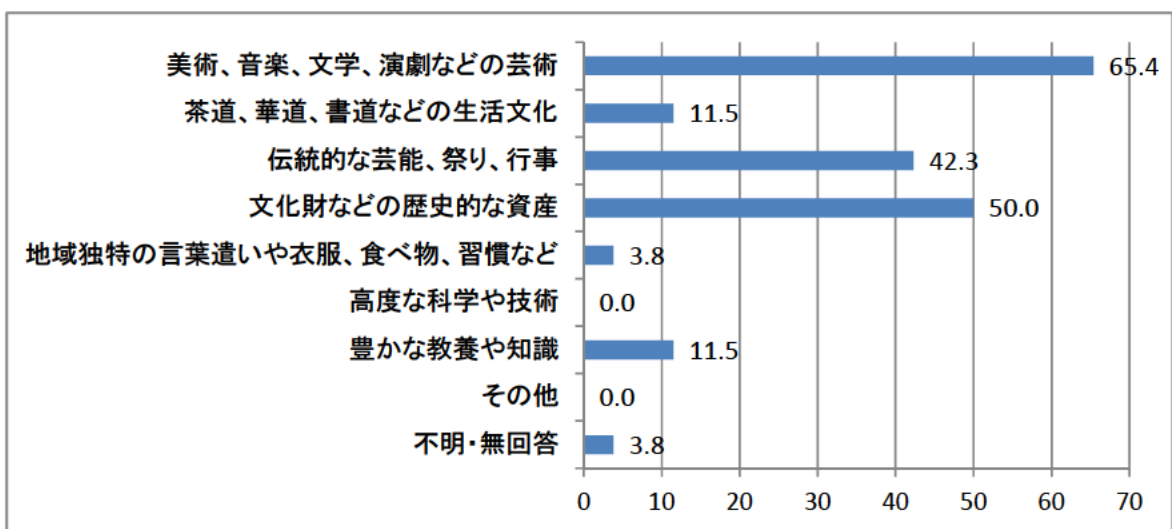
4 調査結果の概要

問1 市町名、担当部署、担当者名に問う設問(略)

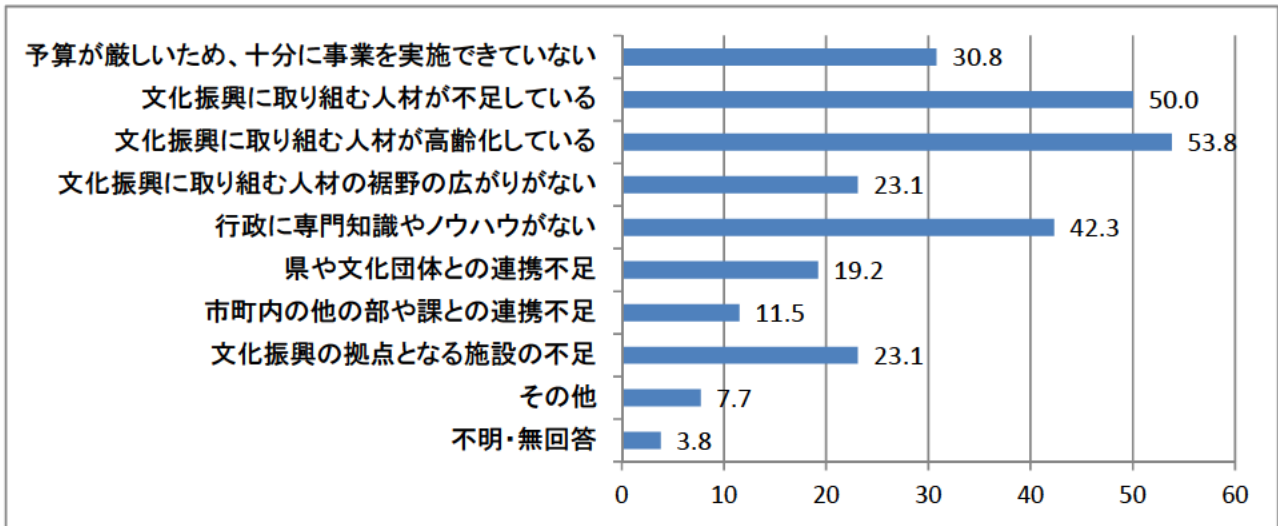
問2 市町において文化振興施策の対象としている「文化」(○はいくつでも)(N=26、単位：%)



問3 市町が文化振興に関して特に力を入れて取り組んでいる分野(○は2つまで)(N=26、単位：%)



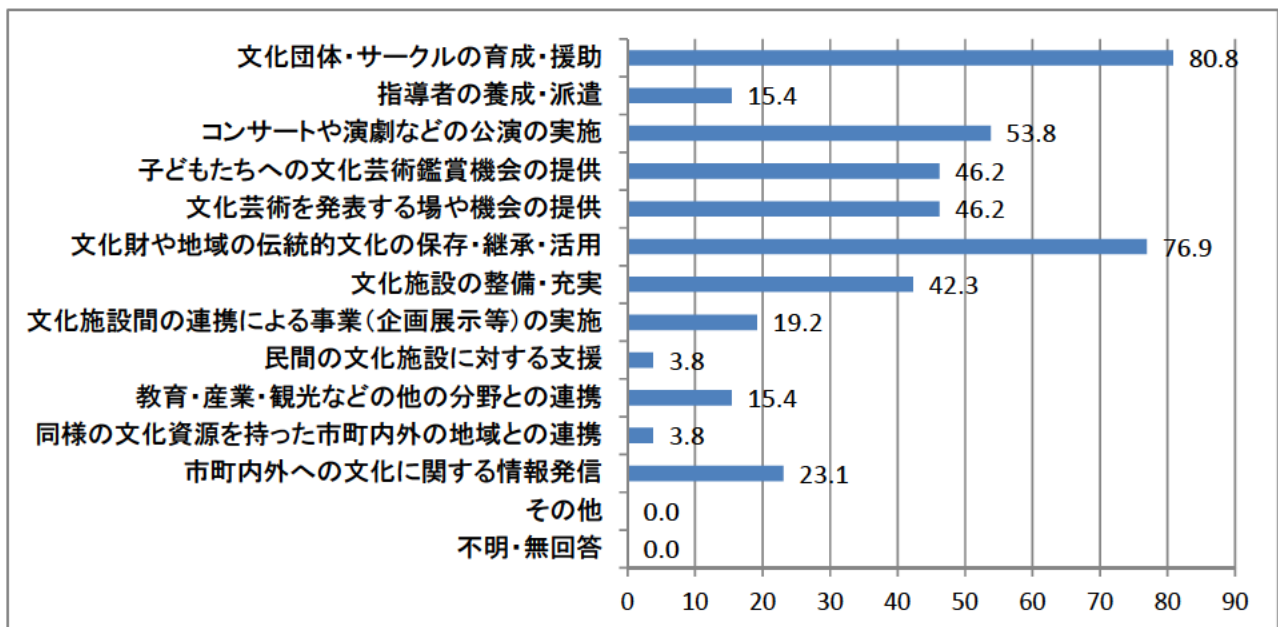
問4-1 文化振興に関する課題(○はいくつでも)(N=26、単位:%)



問4-2 問4-1で選択した課題の内容(自由記述)(主なものを抜粋)

- ・ 職員の人事異動などで、長く文化振興にかかわる人材がないため、活動を広げたり、深めていく事が困難である。
- ・ 文化振興に関しては、県との連絡・調整会議等がないので、もう少し連携が必要ではないか。
- ・ 自治体の規模が小さく、他業務と兼務するため、時間的余裕がなく、専門知識を習得することや、新しい事業を展開することが難しい。
- ・ 高齢化により、会の活動ができず、文化芸術協会を脱退する会がある。近年、子どもや、親を巻き込む取り組みを協会独自に行っているが、目立った会員の増加はない。
- ・ 保存会等の人材が高齢化し、後継者がいない。
- ・ 文化芸術に関する専門知識を持つ職員がおらず、また、会館としてのノウハウが蓄積されていないため、事業の継続性が無く、事業の幅が狭い。専門職員の派遣が望まれる。

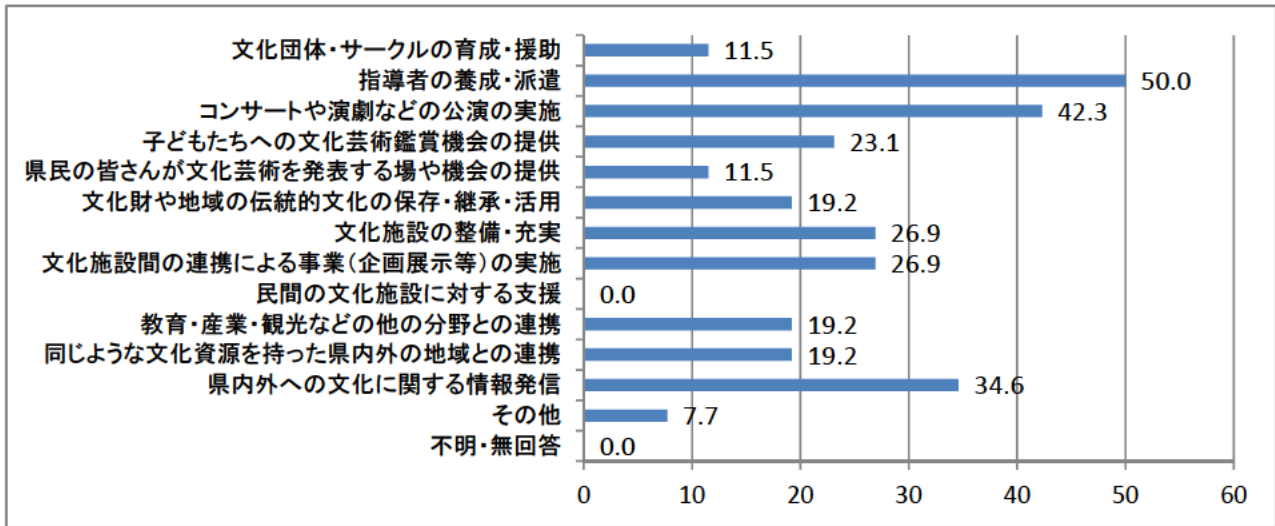
問5-1 市町で取り組んでいる施策(○はいくつでも)(N=26、単位:%)



問5-2 問5-1で選択した施策に係る特徴的な内容や効果等(自由記述)(主なものを抜粋)

- ・市内各地区で大切に受け継いできた伝統芸能や趣向をこらした芸能を演じ合う「郷土が誇る芸能大会」事業と、「家族」と「絆」をテーマに、家族による音楽演奏を競い合う全国公募の「全国ファミリー音楽コンクール」事業により、「元気な産業と輝く文化のまち」をめざしている。
- ・文化ボランティアで構成するプロジェクト委員会が中心となって、「クラシック」「伝統芸術」「歌舞伎公演」などホールキャパにこだわらないオリジナリティーのある公演を、文化庁や宝くじ、各種財団などの助成金を利活用しながら、当町の負担増になることなく実施している。
- ・文化団体に対し、中央公民館の無料貸し出しを行っている。(月4回、1回2時間まで)
- ・図書館、公民館、資料館の機能を有する複合施設の整備を進めている。各館同士の連携を図り、「町や歴史を学び」、「町民同士の出会いを育み」、「各世代がつながる」施設をめざしている。
- ・文化振興事業団への委託事業として、クラシックや軽音楽など、市内で活躍するアマチュア音楽家・グループが音楽祭を開催。ジャンルの異なる演奏家が一堂に会するユニークな演奏会として好評を得ている。
- ・3年に一度を目途に、まちをあげて、さまざまな文化に関する取り組みを集中して開催する文化年を創設した。第1回目となる平成26年度に向け、現在市内外の方々を交えた会議を重ねている。
- ・豊かな文化資源や文化財を郷土の歴史を学ぶ教材として活用し、地域に点在する文化資源を多角的に情報発信するとともに、それぞれを連携させることで観光資源として生かし、地域の活性化を図っている。(学校における地域学習及び社会教育との連携強化、観光担当部局との連携による文化財情報の全国発信など)

問6-1 県と市町の役割分担をふまえた上で、特に県が取り組むことが望ましいと考える施策(○は3つまで)(N=26、単位：%)

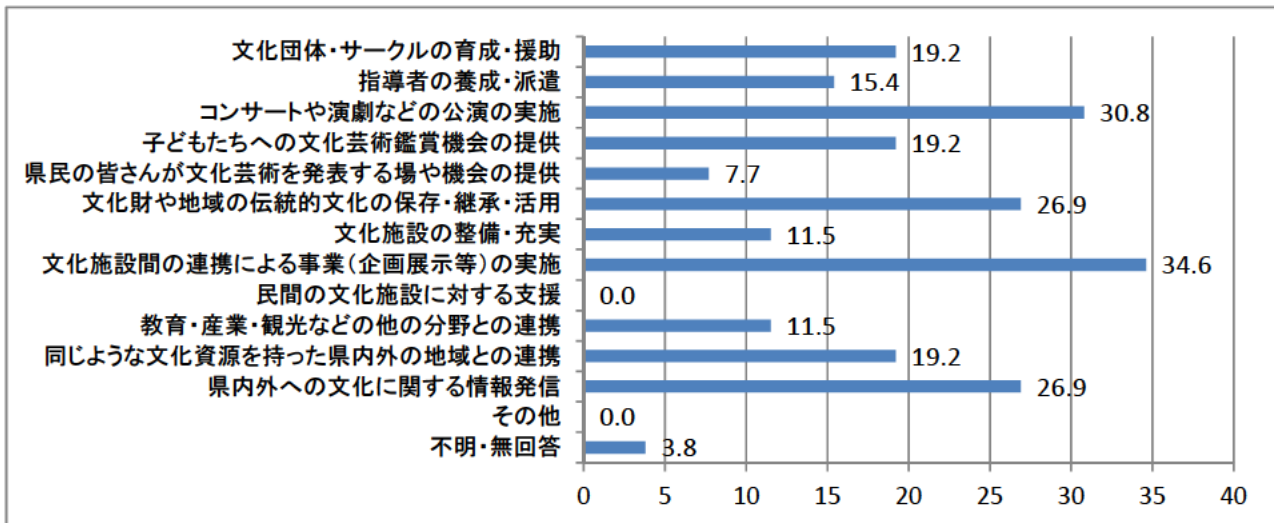


問6-2 問6-1で選択した施策について、県がとりくむことが望ましいと考える具体的な理由(自由記述)(主なものを抜粋)

- ・北勢地域には県立の文化施設が無いいため、南北バランスが悪く感じるので、連携を図った文化事業の実施を望む。
- ・市町が単独で行えないような大規模な公演について、県と市町が連携することで実現の可能性が広がる。
- ・市町と県との情報交換が図れるよう、文化担当者会議を開催してほしい。
- ・人材豊富な県央にて、各種分野の指導者を養成し、データベースから各自治体が要望する指導者を派遣してもらうシステムがあれば、遠くの自治体が時間的、経済的な負担を払わなくても、効率的だと思う。
- ・ホール等の企画や運営、実演芸術の創造などの専門的人材の養成は、広域自治体としての県が取り組む方が効果的だと考える。

- ・市町との役割分担として、県では芸術性の高い公演を実施してほしい。
- ・県内の市町間、県外への情報発信は、県がとりまとめていただくのが効率的だと思う。
- ・博物館や資料館の運営、文化振興事業団と市の連携、先進地の事例など、場合によっては相談や助言を受ける機会を設けていただければ良いと考える。
- ・各自治体が欲する指導者やアドバイザーなどの派遣に取り組んでいただきたい。
- ・他分野・県内外の地域との連携、県内外への情報発信は基礎自治体より県のほうが取り組みやすい。
- ・市内の方への文化芸術の発表の場や機会の提供は出来ているが、県内となると広報活動等が広範にわたり、また、運営やとりまとめも難しいため、県主導でしていただきたい。
- ・来年開館する県立博物館のセンター博物館としての機能を有効に活用し、市町の博物館及び民間博物館との連携を図り、企画展パッケージの作成や合同展覧会を開催することは、広域を管轄する県の取組みとして重要であると考え。
- ・市町単独では情報発信もなかなか難しい。東京・大阪など県外に出先機関を有する県と協働することで、より効果的な情報発信が可能となる。特に東京では「三重テラス」を情報発信の基地として有効活用することができる。

問7-1 県(県立施設等を含む)と連携協働して進めたほうがよいと考える施策
(○は3つまで)(N=26、単位:%)



問7-2 問7-1で選択した施策について、県と連携協働を進めたほうがよいと考える理由や具体的な連携の方法等(自由記述)(主なものを抜粋)

- ・たとえば県がコーディネーターとなって県内複数の自治体から希望公演を募り、何回かの担当レベルでの打合せを行い互いのノウハウや情報交換を重ね、徐々に具体化していき、日程開催地等を決定していく方法。「地域創造」が実施している連携プログラム事業の三重県版のようなもの。できれば県からの助成金等もあれば希望団体は増加するのでは。又、そうする事で県全域の文化の底上げにもつながる。
- ・新県立博物館での展示等に市町の文化財等を活用してほしい。
- ・県内あるいは県外ホールとの連携により企画展示、公演等の事業を行えるよう仲介してほしい。
- ・文化芸術鑑賞の機会を増やす努力をしているが、市単独で開催するには支出負担が大きいため実現できないようなものを、県と複数の市町が共同で開催できればと思う。
- ・市町を超えて、新しい成功事例や、企画途中のものなど、各地の特徴や情報の集積と整理など、効果的にバランス良く、総体的に発信ができるのは県でしか出来ないと考える。メディアやインターネットなどへの働きかけなど、海外への発信も含め、市町のレベルでは出来ない分野で、県でこそ対応できる分野があると考え。
- ・各団体の育成・援助や、情報発信は、大きな影響力のある県と、細やかな内情を把握している自治体がそれぞれの方法で取り組む方が効率的だと感じる。

- ・ 町単独ではできないようなスケールの企画と多くの団体が気軽に参加できるイベントの開催を期待する。
- ・ 県内の連携を図っていくために、市単独で取り組むには、時間及び費用的に難しいため、県に県内の会館を集めて研修会を設けていただき、参加することで連携していきたい。
- ・ 県内外への情報発信は、県の広報を活用させていただくことや県の文化会館へ県内の各会館の情報を掲載していただいて、県と連携し情報発信していきたい。

問8 その他、県の文化振興施策に関する意見・提案(自由記述)(主なものを抜粋)

- ・ 市町が開催する文化事業について県域でのより充実したPRを望む。
- ・ 5年程前より県総合文化センターからのお声かけが発端となり、センターとの共催事業としてクラシック公演やアウトリーチを含めたピアノ、声楽、ジャズなどのワンコイン公演を実施している。本物・上質の芸術の説得力は大きく、公演実施にかかるノウハウを県文スタッフの皆様から学び、又補助金等も頂きながら徐々にお客様も定着しつつある。このようなシステムを今後も継続して実施していけたらと願っている。
- ・ 県・市町の職員が互いの組織、業務をより深く知るため、積極的な人事交流を実施すること。